

平成25年度
高知県地域による教育支援活動
学校支援地域本部 放課後子ども教室

モデル事例集



いい地域には
いい学校がある。
いい学校は
いい地域をつくる。



はじめに

近年、社会がますます複雑化・多様化する中、家庭や地域の教育力が低下し、子どもを取り巻く環境が著しく変化しています。子どもたちを健やかに育むためには、学校教育はもとより、家庭や地域においても、その教育力の回復と活性化を図るとともに、学校・家庭・地域が連携して地域ぐるみで子どもの育ちを支援する体制をつくることが一層重要となっています。

国の第二期教育振興基本計画(平成25年6月)では、「社会全体で子どもを見守り育むため、学校・家庭・地域の連携により、いじめの問題など、学校や地域が抱える課題を共有し地域ぐるみで取り組めるような体制の構築を推進する。」と明記され、3者の連携の必要性が謳われています。

少年の非行率が高く、厳しい状況にある本県では、「高知家の子ども見守りプラン」を策定し、学校と関係機関が連携した非行防止対策の取組を進めるとともに、地域で子どもを見守り、育む気運の醸成にも取り組んでいます。

また、道徳教育やキャリア教育、体験学習などの子どもたちの心を耕す教育を進め、子どもたちの自尊感情や自己肯定感を高める取組にも力を入れています。

このような取組を効果的に進めるためには、学校だけではなく、地域住民等による学校教育活動への支援や放課後等の子どもたちの居場所の充実など、日常的に地域の大人と子どもが交流を図り、関係性を構築できる取組が大きな役割を果たします。

学校と地域との連携は多くの地域で実践されていますが、今回の「モデル事例集」では、学校支援地域本部事業や放課後子ども教室推進事業の取組を一つのツールとして、学校と地域が組織的・継続的に連携し、地域社会全体で学校や子どもたちの育ちを支援しようとする取組を紹介しています。

地域によって社会的資源が異なるため、連携の仕組みや取組は多様なものとなっていますが、それぞれの活動を通じて、「地域の子どもは地域で守り育てる」という気運が高まるとともに、地域のつながりや絆が強まり、地域の教育力の向上にも繋がっている事例です。

ぜひ、この事例集を参考にされて、それぞれの「地域らしさ」を生かした創意工夫のある地域づくりにお役立ていただければ幸いです。

終わりに、本事業の推進にご尽力いただいております地域の支援者の皆さまをはじめ、多くの関係各位に心から感謝申し上げます。

もくじ

はじめに

| | |
|---------------|---|
| 本モデル事例集の特色と構成 | 1 |
|---------------|---|

学校支援地域本部の取組について

| | |
|------------------------------|----|
| 赤岡小学校区学校支援地域本部の取組(香南市) | 3 |
| 香長中学校区支援地域本部(稲生小学校区)の取組(南国市) | 11 |
| 土佐町学校応援団推進本部の取組(土佐町) | 17 |

放課後子ども教室の取組について

| | |
|-----------------------|----|
| 能津放課後子ども教室の取組(日高村) | 27 |
| 咸陽小学校放課後子ども教室の取組(宿毛市) | 31 |
| 吉良川放課後子ども教室の取組(室戸市) | 35 |

学校教育活動や放課後等に子どもたちを支援する体制づくり

| | |
|-------------|----|
| (充実のためのモデル) | 39 |
|-------------|----|

本モデル事例集の特色と構成

★学校支援地域本部の取組について

■取組を主導した機関（方）による分類

3つの学校支援地域本部を掲載しています。各事例とも、過去に「優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰」を受賞している取組です。

取組を中心的に主導した機関(方)、いわゆる「言い出しっぺ」を以下のように区分し紹介しています。

学校主導型

赤岡小学校区学校支援地域本部（香南市）… 学校長が学校を支援する地域ボランティアの組織化を構想して始めました。

地域牽引型

香長中学校区支援地域本部（稲生小学校区）（南国市）… 地域のキーパーソンが、PTCAの組織化を牽引したことをきっかけに始めました。

教育委員会主導型

土佐町学校応援団推進本部（土佐町）… 長年、社会教育に携わってきた教育長が、学校の統廃合を契機に「学校支援組織」を構想して始めました。

■主な掲載内容

- ☞ **基本データ**…平成25年度の主な基本データ（運営委員会、コーディネーター等）を掲載しています。
- ☞ **主な普及啓発及び広報活動**…地域や保護者への周知のための主な広報媒体等を掲載しています。
- ☞ **現在までの経緯**…立ち上げ（構想）から現在までの発展の経緯を、「準備立ち上げ期」「基盤形成期」「定着期」の3つの期間に分類しています。
- ☞ **特色ある取組・活動の様子**…各地域本部の特色ある取組を、文章と写真により紹介しています。

★放課後子ども教室の取組について

■特徴のある連携方法による分類

3つの放課後子ども教室を掲載しています。

取組を充実させるための学校・家庭・地域との特徴ある連携の仕組みに焦点を当て紹介しています。

学校との連携

能津放課後子ども教室（日高村）… 学校との定例会を通じて、子どもの育ちについての共通理解をもちながら連携を深めています。

学校と地域の多様な人材との連携

咸陽小学校放課後子ども教室（宿毛市）… コーディネーター等が学校(教職員等)との関係性を築き、また、地域の多様な人材に協力を求めることで「つながり」が生まれ、連携が進んでいます。

公民館を中心とした地域活動の担い手との連携

吉良川放課後子ども教室（室戸市）… 実施場所である公民館の強みを生かし、地域活動の担い手との連携を図りながら、地域ぐるみの活動を行っています。

■主な掲載内容

- ☞ **基本データ・運営の仕組み**…平成25年度の主な基本データと放課後子ども教室の運営の仕組みを各々の連携の仕組みと合わせて掲載しています。
- ☞ **特色ある取組**…子ども教室での取組について、カレンダーの掲載と合わせ、写真と文章により紹介しています。

学校支援地域本部

赤岡小学校区学校支援地域本部の取組（香南市）

学校主導型

言いたしつべは校長先生！

赴任した学校長が、学校教育活動の充実のために地域ぐるみで子どもたちを育てる仕組みが必要であるとの思いから、学校を支援する地域ボランティアの組織化を構想しました。

学校長、地域連携担当教員、コーディネーターが核となり幹事会を開催し、ねらいを共有しながら支援内容等を企画しています。また、コーディネーターが活動内容やボランティアの特性にあわせて、ボランティア組織「黒潮の子ども応援隊」と連携・調整を図ることで組織的・効率的な支援体制を構築しています。

多くの地域住民の参画により学校教育活動が充実するとともに、子どもたちの「生きる力」が育まれています。学校が地域の人々のコミュニケーションの場となり地域の活性化にも繋がっています。

■基本データ(平成25年度)

| | | | | | |
|-----------------|---|------|-------|-------------|---|
| 対象学校名 | 香南市立赤岡小学校(児童数119名) | | | | |
| 事業開始年度 | 平成24年度 | | | | |
| 運営委員会等 | 委員会名:赤岡小学校区学校支援地域本部事業運営委員会(2回/年開催) 委員数:13名 委員構成:学識経験者、PTA代表、民生児童委員等、地教委担当等、学校関係者 ※平成25年度より幹事会を設置(1回/月) | | | | |
| コーディネーター | 3名 | 活動拠点 | 赤岡小学校 | 地域連携担当教員の有無 | 有 |
| ボランティア登録数 | 170名(常時10名程度来校) | | | | |
| 活動内容別人数(平成24年度) | 延べ1773名 [内訳] 学習支援:940名、部活動指導:1名、環境整備:36名、登下校安全:472名、学校行事:151名、その他:173名 | | | | |
| 事業計画(主な経費使途) | 報償費:地域コーディネーター活動謝金 241時間/3人(80時間/人) 教育活動推進員活動謝金(書道講師、加力学習支援者) 需用費:文具、報告書等 役務費:通信費、ボランティア活動保険等 | | | | |

■主な普及啓発及び広報活動

- ボランティア募集のポスター作成と校区内全域への啓発
- 報告書作成を通じた事業周知
- ホームページや学校便りを通じた保護者や地域の方々への周知



ボランティア募集ポスター
平成25年度版



平成24年度報告書



平成25年度
ホームページ(一部)

■現在までの経緯

| | | |
|--|--|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">準備立ち上げ期</p> <p style="text-align: center;">H 22</p> <p style="text-align: center;">H 23</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○学校長赴任。「保護者・地域と連携した学校経営の推進」を教育活動の柱に「地域住民が気楽に入ってくる学校づくり」を構想しました。 ○当時は、学校独自で地域の人々や外部人材(地域ボランティア)を活用して、昔遊び、読み聞かせ、どろめ網曳唄(踊り)の指導や、地域の方に学習プリントの「丸付け」に協力いただく「目指せ教育先進校応援事業」などに個別に取り組んでいました。 ○学校長が、自ら夏休みに地域に足を運び、昔の保護者(20名程度)を中心に、学校ボランティアへの参加を募ったところ、地域の方々が相互に声かけをしてくれて50名ほどになりました。その後の支援者拡大にもボランティア相互の口コミが大きな推進力となりました。 ○ボランティアの人数が増えてきたので、中心的に動いていただいていた地域の方に「ボランティアを組織化したい」と相談しましたが、「固定されると堅苦しくなる」との理由で賛同いただけませんでした。 | <p>赴任当時、地域の方々や保護者との宴席があり、昔の保護者(若い頃10年間教諭として勤務していた時の保護者)が「地域の方」として、その宴席に参加されていました。</p> <p>丁度、赤岡中学校の生徒の問題行動が多い時だったので、地域の方に「地域からも、中学生に声を掛けて欲しい」と話をしましたが、「中学生は怖いさ～」と返事がかえってきました。</p> <p>この時、「小学生の時に、地域の方々と子どもをつなげていないこと」が原因ではないかと考え、子どもたちと地域の方々が交流する取組を進めて行こうと強く決意しました。</p> <p style="text-align: right;">(学校長談)</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">基盤形成期</p> <p style="text-align: center;">H 24</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○香南市教育委員会から「学校支援地域本部事業」を教えていただき事業を開始するとともに、2年間かけて作ってきた地域の方々の集まりを「黒潮の子ども応援隊」として組織化しました。 ○事業実施に併せて、コーディネーターや地域連携担当教員を位置づけ、また、支援いただく地域住民の組織(応援隊)のシステム化を図り、持続的で自立的な運営ができるようになりました。 ○2月には、ボランティア(50名程度)が一堂に会して親睦会を実施し、子どもと地域住民のみならず、地域住民相互の交流にも取り組みました。 | <p>以前は、学校に入ってくる地域の方々に気が散って授業等に集中できなくなる児童が多かったのですが、今では気にすることがなく集中できるようになっています。また、地域の方々への挨拶や会話も自然にできていて、子どもたちの社会性が育まれていることを実感しています。</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">定着期</p> <p style="text-align: center;">H 25</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○学校教育への支援活動を通じて、地域住民の相互交流が広がり、学校が地域住民のコミュニケーションの場になりました。地域の活性化(地域づくり)にもつながり始めています。 ○学校長、地域連携担当教員、コーディネーター等で組織する「幹事会」を頻繁に実施し、学校と地域が相互に意見交換を行いながら支援活動を考えていくなど、取組が更に充実してきました。 ○12月には、地域ボランティア、児童、保護者等、約130名が参加して「世代間交流会」を実施し、地域住民相互の交流も更に進んでいます。 | <p>時には、地域の方々が叱ってくれるなど、地域の目が子どもたちに届く環境になりました。また、誉めたり、励ましたりしてくれることで、子どもの自己肯定感も高まっているように感じています。</p> <p style="text-align: right;">(学校長談)</p> |



「放課後加力学習」

○緊急避難場所「みまもりの家」活動

地域で、子どもたちが危険に遭遇したり、困りごとがあるときに地域の方々の協力を得て、立ち寄ることができる拠点を設けました。赤岡小キャラクター「あかっぴー」を使って、みまもりの家ステッカーを作成し、協力いただける家に貼らせていただいています。



○消防団と連携した防災学習等の実施

地域の消防団員と連携を図り、防災学習等を実施しています。また、児童は全員が少年防災クラブにも加入しており、年度末の夜回りや消防団の出初め式にも児童が制服を着て参加しています。

これらの取組を通じて「ふるさと赤岡を自分たちで守りたい」などの気持ちが児童にめばえ、防災意識の向上につながっています。



消防団と連携した赤岡町少年防災クラブの活動



地域や専門家と連携した防災学習(訓練)

○地域との3世代交流会

地域の方々と児童、保護者の交流を目的にした「世代間交流会」を行いました。幹事会で企画し、コーディネーターが、そのつながりを活かして地域のボランティア組織、商店、婦人会、食生活改善推進員など複数の団体や個人と連携して実施しています。

平成25年度は、12月7日(土)に開催し約130名が参加しました。年輩者と子ども、保護者との交流が図られるとともに、浜辺のゴミ問題など、地域の課題にも目を向けた交流会になりました。

【浜辺の清掃活動】



【ジャコの釜揚げ見学】



【地引き網体験】



【交流昼食会】



【交流レクリエーション】



■活動の様子

○中学生による読み聞かせ



○ボランティアによる読み聞かせ



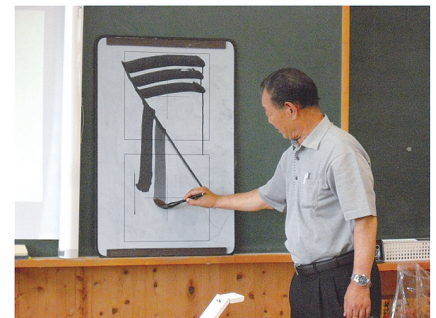
○家族人権合宿



○地域の人からの聞き取り平和学習



○書道教室



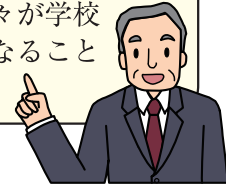
○食育(椎茸栽培)



ボイス

■校長先生ボイス

私が考える「地域の教育力」とは、「地域の方々が子どもたちを叱る（指導できる）力がある」ことだと思います。そのためにも地域の方々が学校に気楽に入ってきて、地域の方々のコミュニケーションの場になることが大切であり、地域の活性化にもつながると思っています。



■地域連携担当教員ボイス

人と人がつながることは、あたたかい雰囲気をつくり出します。

子どもは家庭だけ、学校だけで育つものではなく、そのことをみんなが自覚して取り組むように心がけています。そして、地域の中で、だれもが大切にされる人間関係をつくり、広めていけるようにしたいです。



■コーディネーターボイス

「コーディネーターの役割」とは、「地域の大人に、再び学校へ来てもらうこと」の一言につきると思っています。

自分の子どもが卒業して小学校から遠ざかっていた人たちにも「学校へ来れる機会」をつくり、学校を活性化（元気に）したいです。

学校へ来てくれる人たちに「子どもの役に立てる喜び」を感じてもらうための「つなぎ役」が仕事であり、取組を通じて学校と地域の絆を更に深めたいです。

小学校を中心にする、地域がまとまりやすいということを実感しています。



■子どもボイス

地域の人が、僕たち私たちのことを「宝」と言ってくれるので嬉しいです。

丸つけの時「100点！えらい！」と言ってくれれば、やる気が出ます。

朝「おはよう」「いってらっしゃい」と声をかけてくれると、笑顔になります。

人権学習で赤岡のことをいっぱい話してくれるので、赤岡のことをよく知ることができました。



■応援隊ボイス

学校でのボランティア活動を通じて、子どもから元気をもったり、「あいさつ」が返ってくるとやりがいを感じます。

「来れる時、できる範囲のことをする」ので負担感が少なく、また、参加することでボランティア同士のつながりもできつつあります。



香長中学校区支援地域本部（稲生小学校区）の取組（南国市）

地域牽引型

言いたしっべは地域のキーパーソン!

地域住民（community）がPTAに参加する「PTCA」の組織化を、地域のキーパーソンが牽引し、学校や地域住民、公民館の理解・協力のもと、学校支援活動の組織的な取組が始まりました。

このPTCAの活動が、地域の教育力を学校に還元させ、さらに地域の人たちの前向きな行動が学校を核とした「地域のつながり」をより強め、信頼のある地域社会の再構築にも貢献しています。（以下、地域のキーパーソンのことを「A氏」といいます。）

■基本データ(H25年度)

| | | | | | |
|-----------------|---|------|-------|-------------|---|
| 対象学校名 | 南国市立稲生小学校(児童数84名) | | | | |
| 事業開始年度 | 平成20年度 | | | | |
| 運営委員会等 | 委員会名: 稲生小学校支援地域本部・地域教育協議会 委員数: 35名程度 委員構成: 学校関係者、PTA関係者(元・現)、公民館関係者、民生委員、自主防災連合関係者等 | | | | |
| コーディネーター | 3名 | 活動拠点 | 稲生小学校 | 地域連携担当教員の有無 | 有 |
| ボランティア登録数 | 40名(1日あたり5名程度来校) | | | | |
| 活動内容別人数(平成24年度) | 延べ431名 [内訳] 学習支援: 6名、環境整備: 36名、登下校安全: 378名、学校行事: 8名、その他: 3名 | | | | |
| 事業計画(主な経費使途) | 需用費: 活動報告集作成に係る費用 花苗、土、肥料、事務用品に係る費用 | | | | |

■主な普及啓発及び広報活動

○「PTCA 掲示板」を校門横に設置し、学校行事等の情報を発信しています。

○PTCAの各学年委員が「小学校広報誌」を年間15回編集し、地域の方にも配布することで、学校の様子がタイムリーに地域に伝わるようになりました。

○学校支援活動で蓄積された「学びの推進力」をさらに地域に還元するために、公民館を中心に地域の特産品のビワを使った商品開発などの地域振興を図っています。

この事業の広報誌も地域に毎月配布しています。



■現在までの経緯

| | | |
|--|---|---|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">準備立ち上げ期</p> <p style="text-align: center;">H 17</p> <p style="text-align: center;">H 18</p> <p style="text-align: center;">H 19</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○平成17年、A氏がPTA会長を引き継ぐ際に、地域の核としてさらなる開かれた学校づくりと地域の教育力の再生を実現することを目標にした「PTCA化を進めたい」と、当時の学校長に打診し承諾をもらいました。 ○同6月には、開かれた学校づくり推進委員会で、「PTCA化への協力」を提案したところ了承され、具体的な取組が始まりました。 ○年間3回発行していたPTA広報誌を、毎月発行(年15回)し情報発信を強化しました。また、休止していた「夏まつり」の復活や地域のふれあい文化祭と学校の学習発表会を同時に開催(「稲生の文化が香る日」11月最終日曜日)するなど、地域と学校が同時に動く仕組みを構築しました。 ○同12月には、登下校の見守りを行う「みんなの稲生を守り隊」を結成しました。 ○平成18年4月、PTA総会にて「PTCA化の承認」を議決いただき、地域における認識も向上しました。 ○4年生の参観授業で行っていた「二分の一成人式」を地域の方にも参加していただき、地域全体で10歳のお祝いをする行事にしました。 ○週明け月曜日の全校朝礼時に行うラジオ体操に地域の方も参加し、地域住民の健康づくりにも一役買っています。 ○学校行事等の情報発信を行う「PTCA掲示板」を校門横に設置しました。 | <p>長崎県のホームページの資料を使って、PTCA化の重要性を説明しました。 地域の方が「君らがそう思うならしたらいい」と言ってくださり、PTCA化への成功を予感しました。 (A氏談)</p> <p>「広報誌」と「夏まつり」の取組が、地域全体にPTCA化への力強いメッセージを発信するツールになりました。 (A氏談)</p> <p>南国市から公民館に、高齢者の運動習慣の改善についての依頼があり、コーディネーターが学校に提案したものです。 (A氏談)</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">基盤形成期</p> <p style="text-align: center;">H 20</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○4月、PTCA役員に地域の方3名が就任。また、5月からは、文部科学省「学校支援地域本部事業」を開始しました。 ○近くに流れる下田川の河童伝説をもとに「かっぱフィギュア」を有志の寄付により作成し、シンボリックに学校に設置しました。 ○夏まつりを「稲生かっぱまつり」として開催し、地域の方も主体的に参加するお祭りになりました。 | |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">定着期</p> <p style="text-align: center;">H 21 22 23 24 25</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○平成22年には、図書室の改装にあたり図書室担当の先生と学校支援地域本部のコーディネーターが協議して、「実施目的と方向性」のテーマを「子どもたちの居場所になる“カッパの住む稲生の心の原風景”を創出する」と決定し、保護者や卒業生による書籍の分類や古書の処分が行われました。 ○同12月からは、月に一度、低学年の国語の授業を活用して、地域の高齢者が「絵本の読み合い」を実施しています。 ○平成24年7月、小学生やその保護者、地域住民が参加した防災キャンプを行いました。 ○平成25年6月、13自主防災組織でつくる地区防災連合会と小学校が連携し、学校区全体で行う合同避難訓練を実施し、地域ぐるみの防災学習も充実してきました。 | <p>独居老人の多い地区でもあり、子どもと触れ合う機会の少ない高齢者にとっても有意義な時間となっています。 (A氏談)</p> <p>児童83名を含む約430名の地域住民が参加しました。子どもはもちろん親以上の世代の防災意識も高まることとなりました。 (学校長談)</p> |

■特色ある取組

○OPTCAによる連携活動

P T Aにcommunityを組み入れた「P T C A」が、学校と地域の仲介的役割を果たして連携活動を推進し、地域と学校の意見の擦り合わせや企画から実行までのプロセスの円滑化を図る中間支援的機能として働いています。

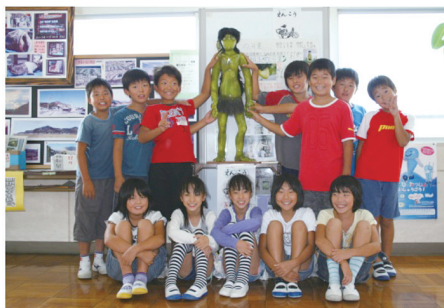
また、少人数のP T Aでは補えない役割をカバーしているだけでなく「地域で子どもを育てていく」という共通認識を地域全体が持つようになり、地域の教育力の再生にもつながっています。

○公民館運営審議委員会が基盤

公民館長、P T C A会長や学校長などから構成され、稲生地区の地域運営を担っている公民館運営審議委員会が学校支援の基盤となり、学校運営に主体的に関わっています。

○カップのフィギア(地域の活性化のシンボル)

稲生小学校の校歌にも出てくる「下田川」にあるカップ伝説をもとに、学校支援地域本部事業に参画していただいている皆さんからの寄付により、活性化のシンボルとしてカップのフィギアを創りました。フィギアメーカー「海洋堂」にお願いして作製したフィギアは、平成21年の河泊神社の夏まつりでお披露目しました。小学校でも、カップの勉強をして地域文化の伝承にもつながっています。



○地域の方と一緒に朝のラジオ体操

毎週明け月曜日に行われる全校朝礼に地域の方にも参加してもらい、児童と一緒に「ラジオ体操」を行っています。毎回約20名の地域の方が参加しています。地域の方々は、朝のウォーキングも兼ねて児童と一緒に登校し、朝礼で学校長の話を聞いたあとラジオ体操に参加します。

交流を目的とした仕組みづくりとともに、児童は体操を通じて姿勢を矯正することにつながり、集中力がアップし、地域の方々にとっては児童の学校生活を見ながら健康づくりができたり、色々な効果があがる取組となっています。



○絵本の読み合い

月に一度、高齢者と低学年児童による「絵本の読み合い」を実施しています。また、「読み聞かせ」に精通している方を講師に招き、参加いただく地域の高齢者を対象に研修会を行い、学びの機会を設けています。高齢者の生き甲斐づくりにもつながっており、双方により効果をもたらしています。



○食農体験

学校行事の田植えや稲刈り、タマネギ栽培、芋掘りなどの食農体験では、例えば「苗の植え付けから、収穫、そして食するところまで」と、その活動にストーリー性を持たせ、各段階で地域の方が深く関わっています。「全てのことがつながっている」ことを活動から体感してもらう内容となっています。

【タマネギ栽培】



収 穫

袋 詰 め

販 売

【田植え・稲刈り】



【芋掘り】



【ロング巻き寿司づくり】

地域の方の協力で収穫したお米を使って、地域の女性グループ「みのりの会」の方から、手順や巻き方を教わりながら挑戦します。



○花育の推進

学校の玄関をきれいにしようと、地域の方、保護者の協力で花壇にヒマワリの種をまくことからスタートした「花育(はないく)」は、他人の思いを察することにもつながるものと考えています。

「食育」と同様に体験型の教育支援としてボランティアの養成にもなっています。

現在では、皇帝ダリアの栽培も手がけ、地域の公民館や地域住民宅への株分けを行い、地域全体に「花育の輪」が広がっています。



○地域の自治防災組織と学校が連携した防災訓練の実施

稲生地区の13の自主防災組織でつくる地域防災連合会と稲生小が連携して、津波避難訓練を実施しました。登校時(8時半)に地震が発生したと想定し、音声放送などで避難を呼びかけ、児童83名を含む住民約430名(住民の1/4程度)が最寄りの避難所へ避難しました。各地区の防災責任者が避難所等から学校に防災連絡をするなど、学校と地域が連携した取組を行うことで、地域の防災に対する意識の向上が図られました。



○「学校支援から、地域支援へ」と活動を展開

これまで、学校支援で蓄積してきた「学びの推進力」をさらに地域に還元するために、平成25年度から文部科学省委託事業を受けて、学校に隣接する公民館を中心に社会教育の活性化を図っています。地域の特産品のビワを使って、小学生と保護者による「びわの種の石鹸づくり」を開催するなど、地域振興につながる取組を行っています。



ボイス



■コーディネーターボイス

私は、子どもが小学生のときに「PTCA」の役員をしていて、コーディネーターとして参加させていただき、子どもが卒業した現在も活動を続けています。

コーディネーターの活動を通して、たくさんの地域の方々が学校支援を行い、子どもたちのために様々な協力をしてくださっていることを知りました。

子育てをしていて、家庭の中でできること、学校の教育の中でできること、それらだけでは、子どもに経験させてあげられないことがあるのではないかと感じるがありました。

でも、稲生小学校では地域の方のお陰で、色々な活動を行うことができ、貴重な体験をさせてもらうことができています。

この環境を大切にして、これからも維持していくことが私たちの役目だと思います。

地域の方に頼るだけでなく、保護者世代も一緒になり地域を盛り上げ、学校を核として活動を行っていけるよう努力していきたいと思います。



■地域ボイス

稲生地区は、高知市と隣接していますが、過疎化・少子化高齢化が進んできています。

このような中、小学校のPTCA化により、公民館も学校と連携した取組が積極的にできており、特に南海トラフ地震の防災と減災の取組では、2013年に日本教育新聞社の取材を受け、全国的にも発表されました。

今後とも、学校と一体となった公民館活動を通して、地域の活性化にもつなげていきたいと思います。

そして、我々の活動を次の世代に引き継いでもらうために、公民館として、学校支援行事などに参加できる環境づくりに努めていきます。

土佐町学校応援団推進本部の取組（土佐町）

教育委員会主導型

言いたしつべは教育委員会

長年、社会教育に携わってきた前教育長（※）が、同町教育行政の方向性である「学社融合」を基に、次代の担い手を地域の力を借りて育てるための「学校支援組織」を構想しました。

子どもたちを地域（町）全体で育てることにより「教育風土の高い町・土佐町」を目指し、学校を核として、学校と地域の双方向の学びがある「知」の循環型生涯学習のまちづくりに取り組んでいます。

取組の中核となる学校支援地域本部事業、放課後子ども教室推進事業等を複合的に実施（複合経営）することで、学校・地域・行政が同じベクトルを持ちやすくなり、教育活動が更に充実してきています。また、地域住民が、自らの学習成果を活かす場が広がり、地域の教育力の向上にもつながっています。

※前教育長は平成25年10月に退任（以下、「教育長」といいます。）

■基本データ(H25年度)

| | | | | | |
|---------------------|--|------|-----------------------|-----------------|---|
| 対象学校名 | 土佐町立土佐町小学校（児童数 150名） 同上 土佐町中学校（生徒数 83名） 同居型小中連携校 | | | | |
| 事業開始年度 | 平成20年度 | | | | |
| 運営委員会等 | 委員会名：土佐町学校応援団推進本部実行委員会（5回／年開催） 委員数：15名 委員構成：小中学校PTA・社会福祉協議会会長・自主防犯組織代表 土佐町婦人会会長・主任児童委員・土佐地区商工会代表 土佐町民生委員児童委員協議会代表・地域ボランティア代表 NPO法人理事長、小中学校長、教頭 ※一部、社会教育委員会及び学校運営協議会を兼務 | | | | |
| コーディネーター | 1名 ※町教委主監職員も配置 | 活動拠点 | 土佐町小学校 （校内に事務所を設置） | 地域連携担当 教員の有無 | 有 |
| ボランティア登録数 | 約90名（常時20名程度来校） | | | | |
| 活動内容別人数 （平成24年度） | 延べ681名 〔内訳〕 学習支援：233名、部活動指導：10名、環境整備：10名、 登下校安全：360名、学校行事：16名、その他：51名 | | | | |
| 事業計画 （主な経費使途） | 報償費：運営委員謝金 地域コーディネーター活動謝金 410時間 教育活動推進員活動謝金（学習支援、部活動支援、学校行事支援、 図書館支援） 需用費：文具、報告リーフレット等 役務費：通信費、ボランティア活動保険等 | | | | |

■主な普及啓発及び広報活動

○応援団だより（毎月発行）、応援団募集パンフレットや活動報告書を通じて広報活動を行っています。

応援団だより



応援団募集パンフレット



平成24年度活動報告書

■現在までの経緯

準備立ち上げ期

H19

- 町内5小学校において、放課後子ども教室を始めました。
- 当時、学校の統合が協議され、統合により地域と学校が遠くなることに対して地域から不安の声があがっていました。そこで、学校と地域をつなぐ「学校支援組織」を設置することを説明しました。

H20

- 地域の協力体制ができ始めたので、地域ぐるみ教育推進協議会等の複数あった各種の会議を一本化し、「土佐町学校・家庭・地域の協働連携学習推進本部(5小学校1中学校)」を発足して、学校支援地域本部事業を開始しました。
- 開設当初から「学校支援地域本部事業」と「放課後子ども教室推進事業(H19年度から実施)」の2つの事業を組み合わせて独自の「複合経営」として実施しています。
- 平成21年度、町内の全小学校の統合に併せて中学校敷地内に小学校校舎が新築され、同居型小中連携校としてスタートしました。名称も「土佐町学校応援団推進本部」に変更しました。

H21

- 推進本部の事務所を学校内に設置し、コーディネーターと町教委主監職員が常駐することにより、学校の求めと地域の力のマッチングが、より効果的にできています。

基盤形成期・定着期

H22・23・24・25

- 実行委員会と社会教育委員会を統合しました。
- 役場の若手職員も応援団に登録して、学校教育活動を支援し始めました。
- 平成23年度には、土佐町全体で「地域の子どもを地域で育てる」という気運(方向性)を感じられ始めたので、学校評議員会制度を導入しました。
- 「地域とともにある学校づくり」をさらに推進するために、コミュニティ・スクールを開始しました。子どもたちが学校運営協議会へ参加し、意見を発表する場も設けています。

統合をめぐる協議(説明会等)では、「子どもたちの声が聞こえなくなる」「子どもたちに関わる機会がなくなる」などの地域の声がありましたが、「(統合で)地域と学校の距離が遠くなるため、地域の方々が足繁く学校に通えるシステムを構築し、地域と学校をつなぐようにしたい」と説明し理解を求めました。

そんな矢先、文科省H20年度概算要求(H19年8月)で、「学校支援地域本部事業(新規)」が発表されました。

この時、統合にあたっての学校と地域をつなぐ「学校支援」の構想が国の方向性と同じであることを確信し、推進の後押しになりました。

(教育長談)

名称は、当初「学校・家庭・地域の協働連携」のイメージを表現したいと思い、「土佐町学校・家庭・地域の協働連携学習推進本部」としていましたが、「名前が長い」との意見もあり、学校を支援する団体というイメージが湧きやすい「土佐町学校応援団推進本部」に変更しました。

(教育長談)

初めの頃は、「今まで、学校がやってきたことを、地域が担う必要があるのか」などの否定的な声が地域からあがっていましたが、取組が充実してくるにつれ「学校を支援することで、自分たちの学習成果を活かしたり、さらに学ぼうとする気持ちも生まれる」という雰囲気地域に広がってきました。

(教育長談)

■特色ある取組等

○実行委員会委員は社会教育委員・学校運営協議会委員を兼務

各種委員会等の委員を一体化することで、「子どもたちを地域(町)全体で育てる」という基本コンセプトが共有され、「学社融合」の方向性も定着してきています。

○学校支援地域本部事業と放課後子ども教室推進事業の一体的な実施

学校支援地域本部事業・放課後子ども教室推進事業等を複合的に実施(複合経営)することで、コーディネーターが一本化され、学校と地域の情報共有がより図られています。また、地域ボランティア等の動きが把握しやすくなり、学校応援団としての組織の充実に役立っています。

○学校応援団事務所を学校校舎内に設置

コーディネーター及び町教育委員会主監職員が常勤する専用の事務所「土佐町学校応援団推進本部」を学校内に設置しています。ボランティア(学校応援団)の談話の部屋にもなっています。



○小学校クラブ活動への応援

地域の方が講師として、小学校クラブ活動(茶道クラブ、囲碁将棋クラブ、マリンバクラブ、アウトドアクラブ、手芸クラブ)を指導することで、より専門性の高い本格的な取組内容となっています。



手芸クラブ



手芸クラブ作品



アウトドアクラブ



将棋クラブ



マリンバクラブ



茶道クラブ

■応援団ボイス(※)

「小学校で茶道クラブの指導を…」とのお話をいただき、長いこと茶道を習っているものの「楽しみは一つに」と考えていたので、とても教えることは無理だと思っていました。第一お道具がないし教えることができるだろうか…と。でも、その時、幼稚園に通っている孫が「お作法習っているんよ。その時、おいしいお菓子とお茶がでる」と、とても楽しみにしている様子でしたので「忙しい子どもたちにもそんな時間があれば…、何かのお役に立つかもしれない」と思い、まず、一緒にその時間を過ごしてみようと友達を誘って、お道具を持ち寄って始めました。子どもたちと過ごす時間は楽しく、あっという間の1時間です。私自身が楽しませてもらっています。

※ 前文は、ご主人を亡くされてから一人住みだったために外に出ることも少なくなりました方が、小学校のクラブ活動で子どもたちに茶道を指導するようになり、子どもたちと逢えることが生きがいになっているというボイスです。(コーディネーター談)

■特色ある取組

○放課後子ども教室への応援

児童の6割が参加する放課後子ども教室は、下校時刻から6時(月～金曜日)まで開設しています。特に、水曜日は体験教室として、囲碁・将棋、レクリエーション、英会話を行っています。

また、子ども教室での出来事や子どもの様子を「連絡票」を使って学校や家庭へ連絡しています。

放課後子ども教室(平日)



放課後子ども教室(夏休み)



○夏休みに廃校を活用した学び場・交流の場「石原サマースクール」

廃校になった小学校を活用し学び場、交流の場づくりを行っています。

ボランティア(学校応援団員)が中心となり企画や準備、運営をします。地域の小学生や保育園児、お年寄りが集まり、読み聞かせや物づくり、地域の川の生態調査、ソーメン流しを行い交流を深めました。



帰ってきて、石原の川の生態調査のまとめをしました。

○中学校への応援

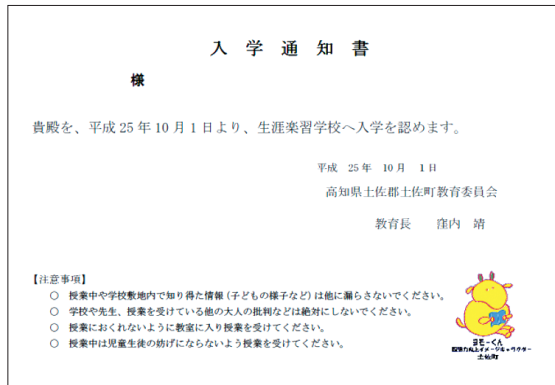
専門家による体育の授業(剣道)での指導のほか、部活動(卓球部)にも支援しています。

■特色ある取組

○生涯楽習学校

ボランティア(学校応援団)が、児童生徒と一緒に教室に入り通常の授業を受ける「生涯楽習学校」を行っています。受講にあたっては、事前にコーディネーターと教員の間で調整を図り、また、教育長名で入学通知書も発行しています。

この取組は、世代間交流はもちろんのこと、地域の方々の学びの機会や知識が広がる場となり、また、児童にとっても、地域の大人とのふれあいや会話を通じてコミュニケーション能力や自尊感情が高まるなどの効果が期待されます。また、教員の授業力の向上にも一役買っているようです。



○学校応援団員は路線バスへ無料で乗車

応援団員として学校を支援する場合は、「応援団員証」を提示すると路線バスに無料で乗車できます。応援団員が乗車することで、騒いでいる子どもへの注意ができるようになり、公共交通を利用するときの乗車マナーの向上にも役立っています。

○行政職員も支援活動へ参加

町職員も応援団に登録して、水泳や陸上競技の補助に入って学校教育活動を支援しています。参加する職員は、「職員研修」として取り扱っています。若い行政職員が子どもたちに関わりを持つことで、「次代の担い手(子どもたち)」を育てようとする意識が高まり、また、子どもたちには、より年齢の近い地域の方(お兄さん、お姉さんのような)に教わることで教育効果が高まっています。

■応援団ボイス

陸上練習の補助に入りましたが、子どもたちと走って体力の衰えを感じ、気合いが足りないと思いました。中長距離の練習に積極的な子どもがたくさんいて驚きました。教育委員会に異動したら中長距離練習には是非自分も参加したいと思います。(住民課職員談)

水泳の補助に入り、子どもたちと楽しく触れあって、元気をもらいました。(産業振興課職員談)

■活動の様子

○小中学校調理実習補助



■応援団ボイス

子どもたちが真剣に、また、時には楽しく調理実習に取り組む姿を見て嬉しくなります。苦手な食材でも、自分で作ったものを「おいしい」と言って食べてくれると、応援団になって良かったと思います。これからも簡単に作れて、おいしい料理を伝えたいと思います。

○体験教室の様子



○遠足見守り



○環境整備



校内草刈・草引き



一輪車置き場を作ってくれました。

ボイス

■教育長ボイス

- 地域の連携による教育支援活動は、教育長や学校長などが替わると取組が続かなくなるという課題がありますが、しっかりとしたシステム（仕組み）を構築することにより、継続性が担保され定着も図れます。また、関係者が替わることで、より充実した取組になる可能性も高まります。

■応援団員ボイス

- 子どもたちの学力向上のために今までの経験が少しでも役立てば幸いと考えて参加させてもらっています。お陰で、楽しく充実した日々が送れています。
- 子どもの成長には、学校・家庭・地域の協力が必要であると考え参加させてもらっていますが、子どもたちや保護者からあいさつをしてもらったり、「ありがとう」のお礼を言われると地域の一人として、自分の生活に広がりを感じます。
- 支援活動の前後など、少しの間でも団員同士の情報交換や交流の場となり、地域づくりにもつながっています。
- コーディネーターが「できる人ができる時にできることを…」とアドバイスしてくださるので、気負わず長続きできています。
- 子どもたちとの関わりを通して日々学ばせてもらっています。お陰さまで刺激的で、パワーをもらったり、脳の活性化にも役立っているように思います。
- 学校が統合した当初より子どもたちと共に歩んできました。毎年新しい子どもたちを迎え、また送り出してきて、応援団のみんなは、この5年間で見守りの対応に自信を持ってきたように思います。子どもたちの成長と共に、私自身も成長し、年齢も確実に5歳は成長しました。反して、体力は相当退化しましたが、もう少し子どもと共にありたいと思います。
- 10年程前に、コミュニティ・スクールの先進校である千葉県秋津小学校の実践を勉強する機会があり、『私も学校に関わりたい』と考えていましたが、私は独身で子どももなく、学校は「とても遠い場所」でした。数年後、「学校応援団」ができ登録しましたが、私には学校を応援する術が何もなく、また「遠い学校」「くぐれない門」を痛感していた頃、教育委員会から「おはなしボランティア」のお誘いを受け、人前で本を読むのは恥ずかしかったけれど、「私にもできるかもしれない」と引き受けました。数日間練習しドキドキで臨んだ初日。今でもアノ日の本を読み終わった後の子どもたちの笑顔と感想が忘れられません。「また来たい!」と思った瞬間でした。その後、食生活改善推進委員になり、小学校・中学校の調理実習のお手伝いもしています。料理の準備や包丁使い、また料理中や盛りつけなど、子どもたちは教室とは全く違った顔を見せてくれます。そして、年々手際が良くなり、子どもたちの成長も実感します。
- 料理男子・料理女子の成長をお手伝いするのは本当に楽しいです。学校応援団として学校に通うようになり、子どもたちは気軽に「ちいちゃん」と愛称で呼んでくれ、学校内外を問わず声をかけてくれます。小さい友達がたくさんできました。学校は子どもたちだけではなく、大人の私たちも成長させてくれる場所、そして今では学校が「元気を貰える場所」となっています。
- ヘルスマイトさんといっしょに食育活動を行う時は、子どもたちに「料理は楽しい」ということと、「できあがりの達成感とともに美味しく味わうことができる」ということを伝えられるように、学年別にテーマを決めています。実習後は、反省会を行い、子どもたちに行ったアンケート調査結果も参考に、次年度の計画を立てています。それでも、まだまだ、十分に行えないところがありますが、活動させていただいている私たちにとっては、良い学習の場になっています。そして、何より、いつも元気をもらっています。

■コーディネーターボイス

○ 地域ボランティア（応援団）の方や学校の先生方の理解・協力があり、スムーズに支援活動の要請に応じることができています。

校舎内に学校応援団事務所や放課後子ども教室があるので、先生方との連絡も取りやすいです。また、学校側の窓口も一つであり、コーディネーターとしては動きやすさ、やり易さを感じていて、大変だと思ったことはありません。

無理せず、力まず、気負わず、背伸びせず、自分のできる範囲のことをやっているの、子どもたちに元気をもらい、毎日楽しみを感じながら成長を見守っています。

学校応援団の皆さんが毎日「できる時に できる人が できることを ムリせずに」をモットーに来てくれます。子どもたちもすぐに机に座り、勉強を始めます。「ねえ、ここがちょっとわからんき、教えて」「この漢字、これでえい？」と…。勉強が終わると遊ぼう…。と。

この様子を見ると、子どもたちが安心して学びや遊びができているんだなあと思います。この毎日の繰り返し、積み重ねが大事なんだと思います。

学校と保護者、地域が一体となって子どもを育てるって、「これなんだ！」と実感しています。今まで、ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。



放課後子ども教室

思いは1つ!! 学校と地域で支える子どもの育ち

－ 学校と地域が連携する取組 －

放課後子ども教室名

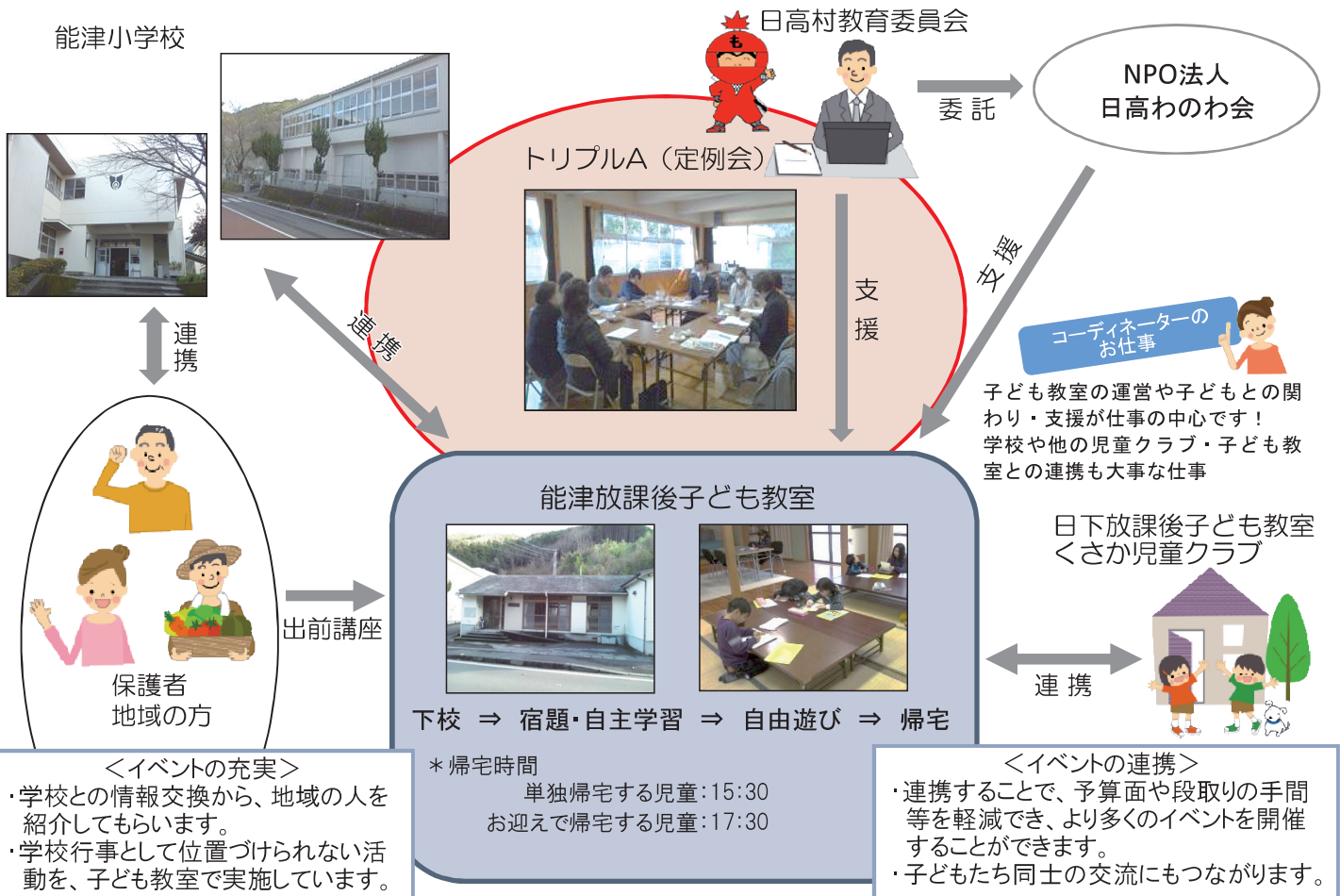
能津放課後子ども教室

市町村名：日高村

基本データ(平成25年度)

- ◆対象学校
能津小学校（全校児童数 18 名）
- ◆開設年度
平成 19 年度
- ◆実施状況
 - 【場 所】 能津公民館・(晴) 能津小学校グラウンド・(雨) 能津小学校体育館
 - 【日 数】 200 日（平日 175 日・日曜等長期休業 25 日）
 - 【時 間】 15:00～17:30（平日）
13:00～17:00（長期休業中）
 - 【参加数】 平均 13 名/日・登録 18 名（全児童が登録）
1 年生 2 年生 3 年生 4 年生 5 年生 6 年生
(5 名) (2 名) (4 名) (3 名) (1 名) (3 名)
- ◆支援者
2 名（コーディネーター 1 名・1 名）
※活動内容によっては、支援者を増やして対応にあっています。
【コーディネーター】 日高村教育委員会臨時職員と兼務。毎日の支援にも参加
【指導員】 NPO 法人日高わのわ会

運営の仕組み



取組について

◆平日の活動◆



ただいま〜!!



自主的に宿題に取り組む
ことも定着しつつあります。



子どもたちは、毎日元気に「ただいま」のあいさつとともに帰ってきます。

—約束していること—

『子ども教室へ参加せず帰宅する子どもも、必ず教室へ顔を出してから帰ること』

子どもたちが
自らが決めた
ルールです。

子どもが中心の話し合いの場
—子ども教室運営委員会—



『宿題をする時は、静かにする』

—子ども教室運営委員会—

子どもたちの自主性を大切にし、子どもたち自身がどのような活動の場にするか話し合う運営委員会を設定しています。

<話し合いの内容>

- ◆きまり（ルール）の決定
- ◆やってみたいイベントの提案

コーディネーターの
お仕事

○指導員さんと一緒に子どもたちへの対応をしています。

⇒宿題の支援・子どもたちの話を聞く・遊ぶ等

○毎日学校の職員室へ顔を出し、連携を図っています。

⇒学校での子どもたちの様子を聞く・子ども教室での様子を報告

○子どもたちの小さな変化を見逃さず、毎日記録に残しています。

⇒子ども同士の関係・言葉使い・学習に取り組む姿・子どもたちの心の様子等

⇒宿題に取り組んだ時間と集中力や学習の理解についても、毎日記録し学校へ報告

連携の仕組み

—能津小学校との連携—

◆トリプルA（定例会議）◆

月1回定例の会として小学校で開催

（活動の報告）

子ども教室での取り組みを報告するとともに、学校からのアドバイスや協力を確認しています。

（子どもの状態についての情報交換）

メンバーそれぞれが把握している情報を総合して、子どもの実態を共通理解するとともに、子ども教室としての対応・学校での指導の方向性を確認しています。



*原則的に守秘！！

<メンバー>

- （学校）
校長・教頭・養護教諭
- （放課後子ども教室・地域）
コーディネーター
- （日高村教育委員会）
子ども支援室担当
子ども教室担当
スクールソーシャルワーカー
補導専門職員

会の流れ

◆子ども教室の報告（コーディネーターより）
⇒活動内容・子どもの様子・今後の活動予定

↓
◆子どもの様子について情報交換

↓
◆学校と子ども教室での子どもについての
共通認識と指導内容の確認

<トリプルAで話される内容(例)>

- ◆子どもたちの様子(元気がない・テンションが高い等)
- ◆子ども同士の関係性
- ◆学習の取り組み状況や理解度
- ◆体調
- ◆指導員との関わり
- ◆生活習慣(就寝や起床時間・食習慣等)
- ◆家庭や保護者の様子
- ◆言葉使いや態度

*話される内容は様々

コーディネーターの
お仕事



○会の日程調整、関係者への連絡、運営等を行い、トリプルAの中心的な役割を担っています。

○子どもたちの細かい変化も学校へ報告し、学校の指導と子ども教室での対応の方向性を調整しています。

○学校・子ども教室(地域)・教育委員会の関係者が情報を収集し、日々の対応に役立っています。

学校の思い



○同じ子どもたちなのだから、一緒に指導していくことが大切。子どもの成長につながっています。

○子どもの困っていることは、関係者が共通認識を図り、支援しています。

○連携することが、子どもの成長を促すと考えています。

年間計画

<イベントカレンダー>

- 5月 15日 第1回茶道クラブ
 - 7月 20・21日 防災キャンプ(子ども会行事と合同開催)
 - 24日 第2回茶道クラブ
 - 31日 間伐材を使った木工工作-木のお家づくり-
 - 8月 1日 キャンドルづくり
 - 7日 紙すき体験
 - 17日 能津花火大会
-学校の先生・地域の中高一・
大人が演奏し、子どもたちが合唱-
 - 22日 マジック教室
-日下放課後子ども教室・
くさか児童クラブと合同開催-
 - 23日 貝殻でクラフトづくり
 - 26日 北一水泳記録会の応援-1・2年生対象-
 - 28日 かき氷づくり
 - 9月 26日 第3回茶道クラブ
 - 10月 30日 屋形船に乗ろう!
 - 11月 27日 第4回茶道クラブ
 - 12月 9日 大花地区への遠足
 - 25日 公民館の大掃除&プチクリスマス会
- ※ 1月に避難訓練計画

<スタッフカレンダー>

- 2月 28日 平成25年度申し込み書配布
- 4月 24日 能津小放課後子ども教室運営委員会
- 5月 30日 防災キャンプについて提案
学校・PTAへ提案
- 6月 3日 トリプルA(第1回)
- 12日 能津小放課後子ども教室運営委員会
- 7月 4日 トリプルA(第2回)
- 4日 防災キャンプについて最終打合せ
学校・PTAと打合せ
- 9月 9日 トリプルA(第3回)
- 10月 9日 日高村子ども支援ボランティア
15日 実行委員会
- 11月 21日 トリプルA(第4回)
- 12月 19日 トリプルA(第5回)
トリプルA(第6回)
- 1月 24日 トリプルA(第7回)
- 2月 5日 日高村子ども支援ボランティア
実行委員会
- 下旬 トリプルA(第8回)

コーディネーターのお仕事

子どもたちの育ちを豊かにするために、様々な体験や交流活動を企画しています!!

- イベントを計画し、充実した取組を実施する。(講師探し)
- ⇒学校や地域の方からの情報
- ⇒保護者の仕事を見学
- ⇒NPO高知県生涯学習支援センターより紹介(連携)
- ⇒児童クラブとの共催や連携で予算を削減することや交流学習もできます。



おたよりは、月2回発行

子ども教室での様子を知ることができない保護者も、おたよりで伝えることで、安心して子どもを活動に参加させることができます。イベント等の際にも、協力を得られやすくなりました。

イベントの様子

茶道クラブ

村内の方を講師にお招きして、年4回の茶道教室を開催しました。

初めは、正座をすることやお茶をたてることに戸惑っていた子どもたちも、回数を重ねるごとに、お茶をたてるどころから、いただくまでの流れを一人でできるまでになりました。

日本の伝統文化である茶道を学ぶことを通して、礼儀や作法を覚えるだけでなく、気持ちを落ち着けて、物事に取組む姿勢も身につけてきています。

また、地域の方をお招きして、子どもたちと交流しながら、共に学ぶ場となっています。



友だちに教えられるようになった子ども!!

礼儀作法も学びました。今では正座もこの通り。



- ◆開催日 年4回
- ◆講師 村内の方(学校支援ボランティア登録者)
- ◆参加者 (子ども)平均12名
(大人)教室担当者2名, 地域の方2名

◆保護者との連携イベント◆

防災キャンプ

夏休み中の土日を活用し、親子イベント『防災キャンプ』を実施しました。

救急法を学んだ後、東日本大震災でボランティア活動を体験した学校の先生の話の聞きました。「いざという時、どうすればいいのか」「どんな状況が想定されるのか」について、親子でディスカッションを行いました。

夕方には、竹で皿と箸を作ったり、竹筒や飯ごう・ビニール袋での炊飯を体験し、様々な方法でご飯が炊けることを学んだ子どもたちから、そのおいしさに歓声が上がっていました。

夜は隣接する公民館の板間にダンボールを敷き詰め、避難所での宿泊を模擬体験しました。1泊2日の日程を終えた子どもたちからは、「災害時にはこのキャンプで学んだことを活かしたい」との声が聞かれました。

- ◆開催日 7月20日(土)～21日(日) 夏休み中
- ◆参加者 (子ども) 地域の保中高生含む24名
(大人) 36名
⇒教室担当者・保護者・先生・地域の民生児童委員



<活動内容>

- * 救急法講習会
- * 防災についての勉強会・ディスカッション・発表会
- * 竹のマイ皿・マイ箸作り
- * 炊飯・調理
- * 避難所での生活体験(段ボールを敷いての宿泊)
- * 昔遊び・キャンプファイヤー等のレクリエーション



段ボールって寝心地も
いいし、あったかい！

屋形船に乗ろう

保護者の方に声をかけていただき、経営されている屋形船に乗せていただきました。

友だちのお父さんが働いている姿を見ることで、仕事の大変さや安全に運転することで人の命を守っていることを知り、キャリア教育の一つにもなりました。

日本一の澄んだ川、仁淀ブルーの『仁淀川』。毎日登下校で見ている川ですが、その青さに「私たちの地域ってすごいんだ！」ということをあらためて実感することができ、自然のすごさを真近で感じることができました。

- ◆開催日 10月30日(水) 放課後
- ◆参加者 (子ども) 17名
(大人) 教室担当者2名



私たちが住んでいる仁淀川
ってきれいだね！！

◆放課後子ども教室と学校のコラボレーションイベント◆

地域へ出かけよう

子どものいなくなった大花地区の方から、学校へ「うちの畑へみかん狩りに来ない？」とお誘いがありました。

学校は、授業や行事でなかなか時間が取れないため、子ども教室へ声がかり、学校の行事代休日に実現となりました。

当日は、ほぼ全員の子どもが参加しましたが、それ以上に地域の方をはじめ、様々な大人がたくさん参加してくれて、賑やかな遠足となりました。

少し長い距離ではありましたが、全員が歩いて大花地区へ。途中、自生しているユズをもぎとって味を試してみたり、草花や木の実を拾って遊び道具やかんむりを作るといった、自然を生かした活動を楽しむこともできました。

今では見た事のない農機具を見せていただいたり、大花地区の歴史についても教わり、『学びあり！おいしいお楽しみあり！』の充実した一日となりました。

- ◆開催日 12月9日(月) 学校代休日
- ◆参加者 (子ども) 16名
(大人) 17名
⇒教室担当者・保護者・教員・学校支援ボランティア・いの交通安全協会・日高村教育委員会

学校の先生をはじめ、
地域の多くの大人との
交流の機会となりました。



大花地区のみなさん！
この日を楽しみにして
くれていたそうです。

大花地区に、久しぶりに
子どもの賑やかな声が
広がった！！



地域の子どもは地域で育てる!!

－様々な人の力を借りて、充実したイベントを実施する取組－

放課後子ども教室名

咸陽小学校放課後子ども教室

市町村名：宿毛市

基本データ(平成25年度)

- ◆対象学校
咸陽小学校（全校児童数 192 名）
- ◆開設年度
平成 23 年 2 月
- ◆実施状況
【場 所】 小学校空き教室・体育館・運動場
【日 数】 199 日（平日 187 日・日曜等長期休業 12 日）
【時 間】 15：00～18：00（給食がある日）
 8：30～11：30（夏休み）
【参加数】 平均 49 名／日・登録 113 名
 1 年生 2 年生 3 年生 4 年生 5 年生 6 年生
 (29 名) (23 名) (23 名) (19 名) (10 名) (9 名)
- ◆支援者
13 名（コーディネーター 1 名・12 名）

運営の仕組み

咸陽小学校



連携

咸陽小学校放課後
子ども教室実行委員会



教育活動推進員
教育活動サポーター

支援

宿毛市教育委員会



連携



保護者
地域の達人
地域の理解者

出前講座講師

咸陽小学校子ども教室



下校 ⇒ 宿題・自主学习 ⇒ 自由遊び ⇒ 帰宅

* 宿題や自主学习の取組は、強制はせず自由

* 16：00～体育館での自由遊び

* 下校時間

単独帰宅する児童：16：30（10月～3月）

17：00（4月～9月）

お迎えで帰宅する児童：18：00

＜支援者を探すコツ＞

- ・市内のイベントへ積極的に参加し、顔見知りになることから始めます。
- ・支援者のつながりを大切にし、紹介してもらっています。

ースタッフの活動ー

＜スタッフカレンダー＞

- 4月 20日 P T A 総会参加⇒スタッフ紹介
- 22日 スタッフミーティング
⇒ 年間の予定を計画
- 6月 6日 参観日(幼児を含む見守り)
- 8月 5日 スタッフミーティング
⇒ イベントの反省等
- 11月 16日 スタッフミーティング
⇒ クリスマス会について
- 24日 参観日&バザー(幼児を含む見守り)
- 2月 未 入学説明会にて保護者説明

ー子どもたちの豊かな活動を支える基本ー

- ☆スタッフミーティング
スタッフの共通認識・意思疎通が大切です。
- ☆保護者への説明
活動を理解し支えてもらうために、保護者が学校へ来る機会を大切にしています。
- ☆PTA執行部会にも出席し、学校との連携を深めています。



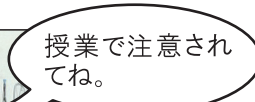
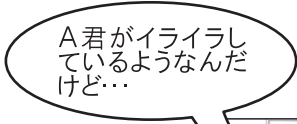
スタッフの意見を聞き、目線を合わせながら、色々な考え方をまとめ、活動を充実させるようにすることが大切です。

入学式・卒業式・開かれた学校づくり推進委員会・授業(家庭科)・PTA活動へも積極的に参加し、学校との連携を図っています。

ー学校との連携ー

◆担任との情報交換◆

学校内で実施している利点を生かし、子どもに関する様々な情報を学校と子ども教室が相互に連絡し合っています。



学校では分からない子どもの様子や保護者のことを、クラス運営につなげることができる。

子どもの変化は、できるだけ早く学校へ伝えることが大切

(放課後子ども教室⇒学校)

コーディネーターはもちろん、スタッフが感じた『子どもの様子や宿題の取組みから見える理解や意欲』『子どもから聞いた話』『保護者から聞いた情報』を学校へ伝えていきます。

(学校⇒放課後子ども教室)

その日にあった学校での様子を連絡してもらいます。

学校との連携を通じて、子どもに対する共通理解が進み、支援の幅も広がります。子どもの豊かな育ちを支える大事な活動の1つです。

さらに、共通理解によって、子ども教室で伸び伸びと過ごせたり、家庭でも落ち着いて過ごせるなど、情緒の安定にもつながっているようです。

◆参観日の保育◆

子どもたちは、保護者が学校に来てくれることをとても楽しみにしています。

幼児のいる保護者が参観日やクラス懇談会に参加しやすいように、子ども教室で、弟妹を預かり、一人でも多くの保護者が参加しやすいように支援しています。

＜担任との情報交換の内容＞

- 子どもの様子
(頑張ってる・イライラ・甘えたい・子ども同士の関係)
- 生活の様子
(「習い事を始めたみたいよ」)
- 保護者との関わり
(「最近仕事が忙しいみたい」)
- 学校の話
(「勉強が難しい・ついていけないみたい」「行事があって疲れてる」)



参観日に来れない保護者のために、学級を回り、参観日の様子を保護者に伝えていきます。コーディネーターが教室に来てくれるので、保護者が来なかった子どもたちにも喜ばれています。

ー多くの人材を活用したイベントー

＜イベントカレンダー＞

- 4月 24日 バドミントン教室
- 5月 22日 バドミントン教室
- 6月 14日 学校との合同避難訓練
- 30日 マスクづくり
チヌの放流
(だるま夕日フィッシングクラブのイベントに参加)
- 7月 20日 流しそうめん
- 30・31日 工作教室
- 8月 3日 天体観測&カレーづくり
- 10月 31日 保小合同避難訓練
- 12月 14日 クリスマス会
- 1月 11日 マンガ教室

ー子どもの育ちを支えるイベントの実施ー

☆放課後子ども教室は、子どもたちにとって、安全・安心な居場所であることはもちろん、地域の人たちの協力を得て、多くの体験・交流活動を実施することで、子どもたちの豊かな育ちを支援する取組になっていると考えています。

☆コーディネーターが「こんなことをやってみよう」という思いを声に出すことで、地域の人材を紹介してくれ、多くの活動を実施することができています。
内容が充実することで、子どもたちの楽しみにつながり、参加者が増加しています。



住民のつながりを活かして、特技を持った人を紹介してもらい、出前講座の講師として協力してもらいます。地域の人材発掘が大切になります。

安全・安心な居場所

～毎月第3水曜日は避難訓練の日～



学校のすぐ前には、海が広がり、環境は素晴らしいですが、地震の時には津波が想定されています。子どもたちが速やかに避難できるように、地域の方が避難路の整備と子どもたちへお話をしてくれました。
何回も訓練することで、意識が高まります。



地域の人との交流イベント

～甘い香り漂うマドレーヌづくり～

地域の方を講師に迎え、マドレーヌ作りをしました。

出来上がったマドレーヌに、トッピングをして、世界でたった1つのマドレーヌを作りました。

家庭でも作ってもらえるように、レシピをお便りに載せました。



親子参加行事

～お肉もりもり！バーベキュー～

保護者に子ども教室の活動を知ってもらい、親子の時間も作って欲しいという思いから、子どもたちの大好きな BBQ 大会を親子行事で行いました。親子の会話も盛り上がり、楽しい時間になりました。

子どもたちもお腹いっぱいお肉を食べて大喜びし、保護者同士のつながりもできました。



学校と地域のコラボ行事

～サンタクロースは、先生と地域の人～

教育活動推進員を中心にクリスマス会を企画しました。

子どもたちが作ったリースを飾り、学校の先生と地域の人変装したサンタクロースからプレゼントをもらって、子どもたちは大喜び！！

子どもたちのダンス発表や「ほにや」で活躍されている地域の方に、鳴子踊りを教えてもらい、子どもたちの練習の成果を発表するなど、とても、盛り上がりました。



「学習及び体験活動支援研修」で学んだバルーンアートで飾り付け！



活動の中には、工夫がいっぱい!!

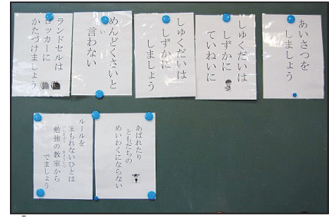
一子どもたちへの支援の工夫

安心して参加できるルールづくり

すべての子どもたちが落ち着いて参加できるようにルールを作っています。分かりやすい内容で、子どもが見て確認できるように掲示しています。子どもの目線に立ち、怒らなくても良い仕組みづくりにつながっています。

<教室でのきまり>

- ・あいさつをしましょう
- ・ランドセルをロッカーにかたづけましょう
- ・宿題はしずかにしていけない
- ・めんどくさいといわない
- ・あばれたりとどちのめいわくにならない
- ・他人のじゃまをしない
- ・ルールをまもれない人は勉強の教室からでましょう



自ら学習ができる意欲づくり

意欲的に学習に取り組めるように、ドリルに取り組んだらシールを貼るようになっています。

目に見えるので、子どもたちのやる気もアップしています。



目標を持って何かに取り組める - 自己肯定感を高める活動 -

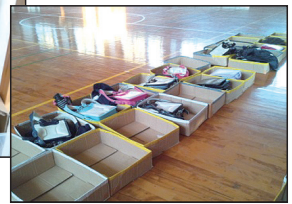
子どもたちが取り組みやすいけん玉に挑戦！検定をすることで、子どもたちのやる気や達成感を育てています。



整理整頓をやすくして管理能力を高める

忘れ物防止や荷物を整理整頓する力がつくように、段ボールで作った荷物置き場を作っています。

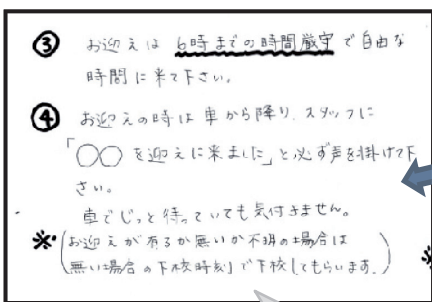
段ボールを上下に切り離し、作った手作りの収納箱です。使わない時には、畳んで収納ができるすぐれものです。一人1つの箱で、子どもたちは自分の荷物を管理する力が身につきました。



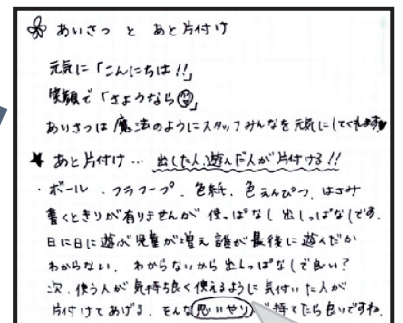
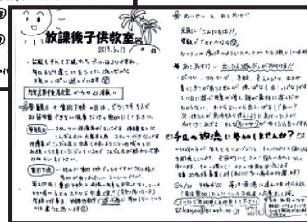
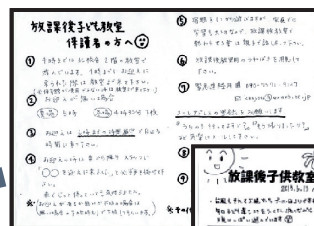
一保護者との関わり

◆お便りの配布◆

子ども教室の活動内容やイベントなどの情報の他に、学校行事や家庭でのしつけといった内容まで幅広い情報を掲載しています。『手書き』にこだわり、読む側の保護者に暖かい気持ちになってもらい、「読みたい!」と思ってもらえるように工夫しています。



「お迎えの時には、子ども教室に顔を出して」など、利用にあたってのお願いもお便りで伝えています。



家庭でも取り組んで欲しい「しつけ」について具体的に伝えるようになっています。

◆メール機能を活用◆

保護者のほとんどが持っている携帯電話を活用し、コミュニケーションを積極的にとることで、信頼関係をつくるようにしています。

保護者からの些細な連絡も、子どもへの大切な支援の1つになっています。*携帯電話は、子ども教室の物を使用

<携帯電話を使った活用内容>

- 一斉送信を使った、連絡手段
- 当日の参加の有無や帰宅方法の連絡
- イベントの参加申し込み
- 保護者とのコミュニケーションツール
- 子育ての悩み相談
- 不審者情報や災害時の緊急連絡



地域ぐるみで、子どもたちを見守り育てる!!

－様々な組織の協力で意図的・計画的に活動する取組－

放課後子ども教室名

吉良川放課後子ども教室

市町村名：室戸市

基本データ(平成25年度)

- ◆対象学校
吉良川小学校（全校児童数 63 名）
- ◆開設年度
平成 22 年 11 月
- ◆実施状況
【場 所】吉良川公民館
【日 数】152 日（平日 132 日・日曜等長期休業 20 日）
【時 間】15:00～17:00（平日）
9:00～12:00（夏休み）
【参加数】平均 20 名／日・登録 53 名
1 年生 2 年生 3 年生 4 年生 5 年生 6 年生
(5 名) (15 名) (6 名) (11 名) (8 名) (8 名)
- ◆支援者
10 名（コーディネーター（室戸市教育委員会）・10 名）
※夏休みには、地元高校生がボランティアで参加

運営の仕組み



開催日数は、週 2 日でも、子どもたちにどんな力をつけたいか？常に指導員同士が話し合うことで、充実した活動につながります。

教育活動推進員のつぶやきから始まる支援

一宿題の取組一

子ども教室へ来ると、子どもたちは、まず宿題に取り組みます。

支援者は、子どもたちが落ち着いて学習に取り組みやすいよう、学習室と遊ぶ場所を分けたり、子どもへの声掛けなども丁寧な言葉づかいを心がけるようにしています。

学習に取り組む態度

子どもたち全員が集中して学習に取り組めるよう、学習に関係のないおしゃべりが始まると声を掛け集中させるようにしています。

正しい姿勢や鉛筆の持ち方が学習の基本となることから、崩れた時には声を掛け、自分でも意識できるように促しています。



ノートやドリルをまっすぐ見ること！
姿勢に注意し集中して学習に取り組めることを大切にしている。

学校からの声



本来は、宿題は家でするものですが、なかなか家庭でできない子どもも多く、子ども教室で、自分で宿題に取り組めるように支援しています。その結果、「宿題をやってこない子どもが減った」という声が先生方から聞こえました。



自学自習の基礎を作る取組

中学生になる前に、できるだけ自学自習の力がつくように取り組んでいます。

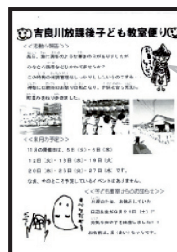
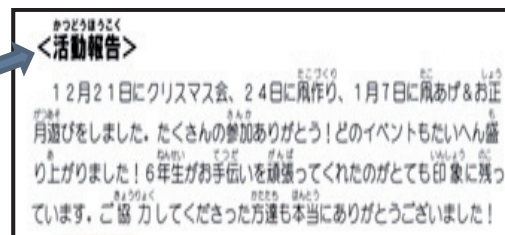
発達に合わせ、低学年では本を、中学年からは辞書を使って調べる学習を行っています。分からないことを調べる習慣が身につくにつあります。

一保護者と子どもの関係を支える取組一

◆お便りの配布◆

月に1回お便りを家庭に配布しています。お便りを通じて、子どもがどのような活動をして、どのようなことについて興味をもっているのかを知ってもらいます。子ども教室の理解や協力をお願いしたいという思いがありますが、仕事や家事が忙しい保護者には読んでもらうことが難しいことがあります。

お便りの中の漢字すべてに『ふりがな』を振り、子どもが読んで保護者に説明できるようにしました。それにより、親子の会話も広がり、子ども教室への理解が深まっています。



イベントの写真や絵なども入れ、子どもも保護者も楽しんで読めるよう工夫しています。



クラス便りと同じように、子ども教室のお便りを学校の廊下に掲示してもらい、活動内容を教職員にも理解してもらうようにしています。

一学校との連携一

◆子どもの様子を学校へ連絡◆

中心となっているスタッフは、学校の評価委員や支援員も兼ねています。学校の環境整備やPTA活動を通し、学校と日頃から関わり、子どもの育ちに共通理解を持ちながら取り組むことができます。

学校での様子を聞いたり、子ども教室での、普段と違った子どもの様子等を学校へ連絡することで、子どもの支援に役立っています。

◆保護者参加型イベント・お悩み相談◆

保護者が困ったり、孤立しないよう、保護者参加型のイベントを実施したり、『子育てのこと』・『家庭のこと』・『学校のこと』等なんでも、気軽に相談にのることで、保護者のストレスを軽減し、家庭教育を支えています。



◆特別な支援を要する子どもへの支援◆

特別な支援を要する子どもは、『特別な配慮』が必要になることがあるため、必要な時には、学校の特別支援学級の先生からアドバイスを受けてたり、子ども教室へ出向いてもらって、支援に役立っています。

意図的・計画的な体験・交流イベントの充実

<イベントカレンダー>

| | |
|---|--|
| 5月 15日 柏餅づくり | 15日 親子マイ箸づくり・ステンシルうちわづくり |
| 7月 23日 紙すき体験(暑中見舞い・年賀状づくり) | 18日 親子考古学教室・勾玉づくり等 (公民館主催事業) |
| 25日 紙飛行機大会 (広告チラシを使った紙飛行機づくり) | 20日 バルーンアート |
| 30日 染物教室 (山崎さんによる手ぬぐい草木染め体験) | 22日 室戸の子交流会(室戸少年自然の家) |
| 31日 マジック講演と体験 | 29日 クレープづくり・ゲームお楽しみ会 |
| 8月 1日 吉良川備長炭で風鈴づくり (炭玄さんによる風鈴づくり体験) | 10月 13日 吉良川子ども花台参加 |
| 13日 チョコバナナづくり・盆踊り練習 (民生児童委員さんより教わる) | 12月 21日 クリスマス会・ケーキ・リースづくり 24日 土佐凧づくり体験 |
| | 1月 7日 凧あげ・正月あそび |

<公民館事業の活用>

・住民の活動拠点となっている公民館での事業に子ども教室の活動を組み合わせることで、より充実した活動を実施することができます。

学校からの声

夏休みの活動を充実させたことで、子どもたちは子ども教室の活動を楽しみに過ごすことができました。その結果、生活リズムを崩すことなく、集団での活動にも慣れ、スムーズに2学期をスタートさせることにつながりました。

◆地域との連携による伝統(文化・産業等)を学ぶイベント◆

地域の文化や産業を学ぶことで、地域を知り、地域の良い所を見つけることができます。以前から、『地域を愛する子どもが育ち、将来、吉良川を支える大人になってくれること』を願って、公民館を中心に、地域活動を行う組織と協働した取り組みが盛んでした。

子ども教室も、その一員として、行事に積極的に参加しています。

地域の人との交流イベント ～盆踊り練習から地域の人を知る～



吉良川地区で行われる盆踊りに、子どもたちも参加できるよう、地域を活性化させる活動を行っている『吉援隊』の方に、盆踊りを教えていただきました。初めて踊る子どもたちは、細かい手の動きや前や後ろへ進みながら踊ることに戸惑っていましたが、一生懸命に練習しました。「完璧じゃなくていいから、丁寧に」とアドバイスされ、大きな声で「はい」と返事もできました。最後には、子どもたち自ら「ありがとうございました」とお礼も言え、地域交流の良い機会となりました。



御田八幡宮 秋の神祭 ～子ども花台から伝統芸能を知る～

御田八幡宮古式行事保存会を中心に行われている「御田八幡宮『秋の神祭』」に、子ども教室も加わり、ちょうちんや障子紙などで飾られた花台を担ぎました。

子ども花台は、大人のものに比べて7割ほどの大きさです。「将来の祭りの担い手に育って欲しい」という地域の思いと、「大人になったら、大きい花台を担ぎたい」という子どもたちの思いが生まれます。大人からは、伝統文化だけでなく、礼儀作法や規範意識を学んでいます。



土佐備長炭の風鈴づくり ～土佐備長炭から伝統産業を知る～

約100年前から生産されていた土佐備長炭を使って、風鈴づくりを行いました。

「室戸に働ける場を」「室戸を大切にしないで」という思いで、吉良川地区に帰って来られ、2007年から地元で活躍されている、土佐備長炭の窯元『炭玄』を経営されている方を講師にお招きして、風鈴づくりをしました。

木からできる炭が、きれいな音色の風鈴に様変わりします。

子どもたちは感動しながら、世界でたった1つのマイ風鈴を作りました。



きれいな音になるように、何度も何度も丁寧に磨きました。

◆季節や文化を感じるイベント◆

近年、家庭や集落で季節の節目に営まれてきた行事が失われつつあることを危惧していました。公民館事業と連携することで、節目の行事を体験し、日本文化や季節の移り変わりを感じる心を育てています。

季節の飾りを作る ～地域の施設を飾り交流する～

季節に応じた『飾り』を子どもたちが作り、地域の施設で飾らせてもらっています。

地域の人たちも、子どもたちが飾った『飾り』に、季節の変化を感じ、子ども教室の活動に進んでいます。



公民館に飾られた、鯉のぼり



町並み館に飾られた、七夕飾り



《子ども教室で行った年中行事》

- ・柏餅づくり&鯉のぼり飾り
- ・折り紙教室（兜づくり）
- ・七夕飾り
- ・そうめん流し
- ・盆踊り
- ・クリスマス会
- ・土佐凧づくり&凧あげ
- ・正月遊び（福笑い・羽つき等）

端午の節句 ～兜飾りと柏餅づくり～

男の子のお祝い『端午の節句』に合わせ、兜かざりと鯉のぼり、柏餅作りをしました。鯉のぼりは、地元の川、『東の川』にも飾り、地域の方々も喜ばれました。最近では、柏餅を食べたことのない子どもも多く、作り方を地域の方から教わり、自分で作った柏餅の美味しさに感動しました。主役の男の子たちは、大満足の1日でした。



土佐凧作り&凧あげ ～伝統文化を知り、次代へつなぐ～

土佐和紙で作られた土佐凧は、江戸時代から高知県東部地区で、男児の出生や還暦の祝いとして挙げられていました。

地域で土佐凧を作っている方を講師にお招きして、年末に作り、年明け1回目子ども教室の時に、小学校のグラウンドであげました。当日は、風が無く、「走って！走って！」の声に走り回り、自分たちが作った凧があがると、子どもたちは大喜び！！来年は、凧上げ大会を開催したいという声も聞こえています。



◆キャリア教育につながるイベント ～活動を充実することと学習がマッチングした取組～◆

自営業を営む家庭が減り、親の働く姿を見ることが少ないことや手伝いをする機会が減ってきた子どもたちに『働く機会』を作りたいという思いと、子ども教室での工作や調理等での材料費を作ることの2つを目的に、将来の社会的・職業的自立を目指す、『キャリア教育』の視点を取り入れた活動に取組を始めました。

働くことを知る ～地域のお祭りで販売学習～

工作や調理を行うためには、資金が必要なので、地域のお祭りでの販売活動を始めました。

今では、子どもたちが主体的にアイデアを出し、チラシやポスター作り、地域での広報活動など積極的な活動になってきています。

最近の子どもたちは、地域の人と積極的に関わったり、人の役にたつことを知らないことが多くあります。販売学習を通し、人の役にたち、「どうしたら人に買ってもらえるのか？」と考えるなど、子どものアイデアがたくさんあった活動になっています。



子どもたちの声



自主的な活動を積み重ねることで、子どもたちが主体的に子ども教室での取組を考えるようになってきました。

販売活動の第2弾として、高学年の子どもたちを中心に、「吉良川の町並みのことを勉強し、観光客に案内したい」という声があがっています。実施に向け検討中です。

学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割と責任を自覚し、相互に連携・協力しながら、「地域ぐるみで子どもの育ちを支援する体制づくり」が進んでいます。

学校教育活動や放課後等に子どもたちを支援する体制づくり (充実のためのモデル)



■運営委員会

○教育委員会は、運営委員会を設置し、**学校・家庭・地域の関係者が当事者意識をもって議論を重ね**、地域が望む子ども像やその実現のためにできる取組等、めざす方向や方針を明らかにします。

■学校(管理職)

<役割>

- 学校の教育目標や活動の方向性を示し、**関係者のベクトルあわせ**を行います。
- 地域と連携・協働し、地域全体で子どもを育てていこうとする意識改革を行います。

<効果>

- 地域と組織的、継続的に連携を図る仕組みづくりを通じて、学校が抱える様々な教育課題を地域全体の課題へとつなぎ、解決に向けた取組を「地域ぐるみ」で行うことができます。

学校と地域をつなぐ
学校側の窓口です。

■地域連携担当教員

<役割>

- 地域の情報を教職員へ伝えたり、学校内のニーズを集約し、コーディネーター等に相談・依頼するなど、**地域との連絡調整**を行います。

<効果>

- 学校全体の取りまとめ役が明確になり、情報を集約して地域と連携することで学校全体として効率的な運営ができます。また、学校と地域が、組織的で継続的なつながりを構築することができます。

【学校支援地域本部】



【放課後子ども教室】



コーディネーター

学校と地域ボランティアをつなぐ中核的な役割を担います。

地域住民

連携・調整

地域ボランティア(※)

学校の応援団
(地域の組織化)



保護者

消防団

婦人会

読書サークル

老人クラブ

体験活動提供団体

福祉関係者

安全見守り

等

支援活動



コーディネーター



放課後児童クラブ

放課後児童クラブ(保護者が安心して働きながら子育てができ、子どもたちが放課後等に安全に過ごせる居場所)についても、「地域ぐるみで子どもを支援する体制」の一つとして重要な役割を担っています。



※「地域ボランティア」とは、教育活動推進員、教育活動サポーター及び無償ボランティアなど、子どもを育む活動を支援する地域の方々のことをいいます。

■コーディネーター

<役割(学校支援)>

- 学校のニーズ(協力依頼)に応じて**地域ボランティアへの連絡調整**を行うほか、地域ボランティアの思いや提案等を調整し、具体的な支援活動に結びつけます。

<役割(子ども教室)>

- 子ども教室の**総合的な調整役**として、地域ボランティアの人材確保や活動プログラムの企画・運営を行います。

<効果>

- 地域の情報を把握しやすくなり、取組が充実します。

■地域ボランティア

<役割(学校支援)>

- 学校の**ニーズに応じて**、学校の教育活動を支援します。

<役割(子ども教室)>

- 学習活動を支援したり、技能・特技を活かして昔遊びやスポーツ、文化芸術活動等の体験活動を子どもたちに提供します。

<効果>

- 地域住民等が交流する機会が増え、地域の絆づくり(コミュニティの活性化)につながります。
- 学校や地域の子どもの様子が理解でき、「責任ある地域の大人」の意識が高まり、地域の教育力が向上します。
- 活動に参加することで、自己実現や生きがいづくりにつながります。

※県内外の取組事例を参考にした一例です。